

姉妹町村

美浦村のホット情報

美浦村の観光をPR

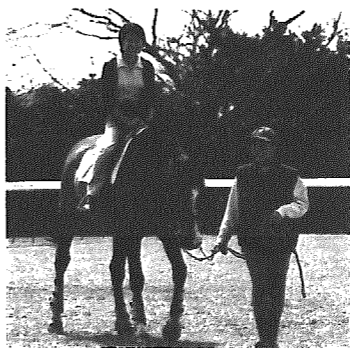
美浦村の観光キャンペーンの一環として、公募によって集まった首都圏を中心とした家族連れ三十名が参加したふれあいの旅「縄文の道」縄文生活美浦界隈Ⅱが三月二十八日～二十九日の一泊二日の日程で実施されました。



参加者は次のような体験を通して、美浦ならではの自然とふれあう旅を満喫しました。

▲縄文遺跡を通した歴史体験
▲縄文食作り（古代米・野草・魚を食材）、塩作り、石器作り、火おこし、縄文土器・ア

▲競走馬を通した動物とのふれあい
▲乗馬、ニンジンを食べさせる



「ご厚志に感謝」

岡田スズエさん（木津）より、町の社会福祉に役立ててほしいと二万円寄付がありました。ご厚志に感謝します。

耳よきな情報

～広域情報ネットワーク～

〈亀田町〉
日米親善高等学校レスリング大会
新潟県代表の高校生と米国ワシントン州代表の高校生が親善・友好・国際交流を目的に対戦します。入場は無料です。
▶期日 6月28日（日）午後1時開始
▶会場 アスパーク亀田（亀田町総合体育館）
▶問い合わせ 亀田町教育委員会 町民体育課 ☎381-1222

〈巻町〉
自家製ワイン・地ビール情報
◎カーブドッチ ワイナリー
広大なぶどう畑で数種類のぶどうを栽培し、おいしいワインを作っています。レストランを併設し、ワインを飲みながら食事を楽しめます。
▶場所 西蒲原郡巻町角田浜1661
▶電話 0256-77-2288
◎エチゴビール地ビール園
10数種類の個性あふれるビールを楽しむことができる、全国第1号の地ビール醸造所です。地ビールに合うオリジナルメニューもあります。
▶場所 西蒲原郡巻町福井3970
▶電話 0120-72-0640

薬物乱用の恐ろしさを

きちんと子どもたちに伝えよう

覚せい剤・大麻・コカインなどの薬物汚染は、いま、中学生・高校生にまで及んでいます。覚せい剤事犯で補導された中高生はここ数年増え続け、平成九年には過去最悪を記録し、平成七年に比べて二倍以上に上っています。最近では中学生でも簡単に薬物を手に入れ、仲間同士で学校でやりとりすることも珍しくなくなっています。少年への薬物汚染は確実に広がっています。

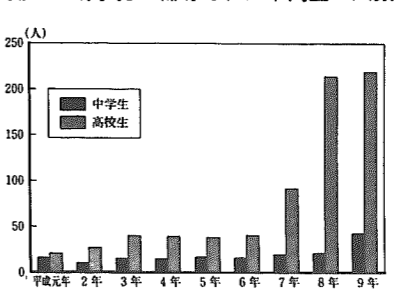
①薬への身体的・精神的依存症が強まり、自分の意思では薬の量が制御できなくなります。
②人格障害、血圧上昇、脳出血などの弊害が表れ、心身がボロボロになります。

薬物乱用のきっかけは、「気持ちがよくなる」といった誘い文句、友人の誘い、好奇心からです。薬物の恐ろしさを知らない



③幻覚や妄想が強まったり、錯乱状態に陥るなど、殺人や事故の原因になります。
④薬物乱用による精神障害が治ったように見えても、突然再発することがあり、害は半永久的に続きます。

覚せい剤事犯で補導された中高生の人数



善意ありがとう

四月十日、横越小学校の児童会のみなさん及びのぎくの家（横越上）から、たくさんの古切手や使用済テレホンカードなどのご寄附をいただきました。町社会福祉協議会では、さっそくこの善意を次のところへ送りました。

- ◎古切手は
○お誕生日ありがとう運動本部へ（知恵おくれの人たちを正しく理解してもらうために使います）
- 日本キリスト教海外医療協会へ（アジア・アフリカ地域の子どもたちを結核から救うために使います）
- ◎使用済プリペイドカード（パスカード、オレンジカード、ハイウェイカードなどで、デザインの種類は）
○ジョイセフへ（アジアやアフリカ、中南米の開発途上国の人々の栄養改善・寄生虫予防などに使います）
- ◎使用済テレホンカードは
NTTと社会福祉協議会との間で現金に換え、地域の福祉事業の財源にします。千枚で一万円（一枚当たり十円）に換金することができま

す。費用は三、三〇〇円です。

▼期日 六月二十七日（土）二十八日（日）

▼申込期限 六月二十二日（月）
▼問い合わせ・申し込み 県立青少年研修センター ☎〇二五六―七七―二二二

緑のステーション参加者募集

県立青少年研修センターでは、PTA関係者・青少年活動団体指導者・教員・保護者を対象に、子どもとのつき合い方の講話・星座の観察・カヌー体験などを、同センターとその周辺で行います。費用は三、三〇〇円です。

▼期日 六月二十七日（土）二十八日（日）
▼申込期限 六月二十二日（月）
▼問い合わせ・申し込み 県立青少年研修センター ☎〇二五六―七七―二二二

ある里物語 町史編さんだより 44

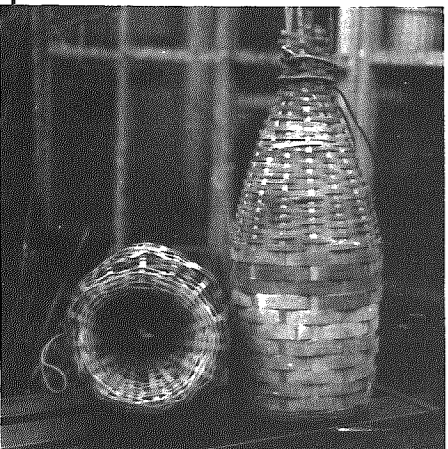
ドジョウ捕り

戦前の夏の風物詩といえば、ドジョウ捕りです。亀田町をはじめ横越町の川根谷内や藤山・駒込では、土用（夏の土用は七月下旬～八月上旬ころ）が近くになるとドジョウを捕る人たちが賑わいました。

今は水田が整備されて堀が側溝などに変わってしまいました。昔は田の畦の脇が流れ、泥の中に大形のオドジョウ、小形のカナメドジョウがいたものでした。

ドジョウが活動を始めるのは、葺が芽を出す六月下旬からで、九月下旬まで捕れたものです。特に雨降りのときに多く捕れました。ドジョウは、「ドジョウツズ」といって直径六～七寸（約二十㎝）、高さ一尺五寸（約四十五㎝）の目の細かな竹製の籠を使って堀に入れます。

亀田付近で田の湛水が深かった所では、ツズを棒または竹に縦に結びつけ、水中へ挿し込んだので「タツベエ」という言い方もありました。その後、土



地改良で排水が良好になるにつれ、田の水が減る土用の頃には、ツズを夕方田の水口や畦際の泥の中に斜めづけに入れておくと、翌朝にはツズにいっぱいドジョウが入っていたものです。水のやや深いところへは直立式にツズをつけます。この場合はミミズやコヌカタンゴ、あるいは大豆のカスなどの餌を入れておきます。

カナメドジョウは水の流れに逆らって上る習性があるため、ツズを水口に置きます。ガチャガチャポイという棒で網に追い込んで捕ることもあります。この日になると、どこの家庭でもドジョウを食べたもので、大きなドジョウになると骨抜きにしてごぼうと卵とじなどにして調理し、夏バテを防ぐ栄養源として大切な食料とされました。

ドジョウツズ (民俗部会 斎藤義信)